

第3章 区計画

●区役所の主な取組

緑区役所では、平成25年度の緑区政運営方針において、「安全・安心、みんなにやさしいまちへ」を基本目標とし、その達成に向けた施策として、「安全・安心なまちづくり」、「いきいき暮らせるまちづくり」、「みどりの魅力あふれるまちづくり」の3つの柱を定め、様々な事業に取り組みました。

今年度も、区政運営方針を念頭に、区計画を推進しましたので、その主な事業の実施状況を紹介します。

1 安全・安心なまちづくり

(1) 災害に強いまちづくり

つながり **人材・担い手** **情報** **安全・安心・健康**

緑区全体の危機管理能力を高め、安全で快適に暮らせるまちづくりを進めるため、区役所と地域、団体等が連携し、あらゆる危機に対して日頃から備える取組を行いました。

まず、昨年度修正した市及び緑区の防災計画「震災対策編」をふまえ、新たな被害想定や出火防止、家屋の耐震補強、家具の転倒防止対策等の啓発を行いました。特に、「家具の転倒防止対策キャンペーン」(6~10月)として啓発用マグネットステッカーを作成し、区役所・土木事務所・消防署等の車91台の車体に貼付したほか、区民の方々と接する機会をとらえて啓発に努めました。また、減災対策等に関する出前講座を、自治会などで延べ12回開催しました。



<家具転倒防止対策ステッカー>

地域の防災力の向上としては、関係機関と連携し、11月に鉄道駅から地区センターまで誘導する帰宅困難者対策訓練を実施するとともに、12月には地域防災拠点防災備蓄庫の資機材取扱いフォローアップ訓練を、1月には防災講演会を開催しました。3月には区災害対策本部訓練の実施に併せ、特別避難場所と連携した情報受伝達訓練も行いました。また、地域防災拠点の11拠点にて防災備蓄倉庫にある資機材の保守点検・修繕も行いました。



<帰宅困難者対策訓練の様子>

(2) 安全・安心な環境づくり

情報 **安全・安心・健康**

「安全は区民・地域自らがつくる」という考えの下、防犯に関する区民の関心を高め、地域での自主的な活動を推進するための取組を行いました。

まず、防犯活動の推進としては、自治会等地域で活動する団体への防犯パトロールグッズの提供や、活動の成果を報告する「地域防犯活動報告会」の開催(11月)、地域の防犯力の強化に向けた「防犯リーダー養成講座」(3月)のほか、引き続き防犯情報メールの配信を行いました。

交通安全対策としては、今年度も、高齢者向け・児童向けの啓発事業の実施や放置自転車等監視員の配置(区内4駅240日)、スクールゾーン対策協議会(16校)の開催などを行いました。

2 いきいき暮らせるまちづくり

(1) 「みどりのわ・ささえ愛プラン」の推進

つながり **情報**

3年目を迎えた第2期緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」の推進について、地区別計画では、区役所・区社協・地域ケアプラザの職員で構成する地区支援チームが、地区の情報を毎月1回共有し、各地区の地域主体の課題の解決に向けた取組が推進するよう、支援しました。

今年度は特に、地区支援チームメンバーの地域支援のスキル向上のため、10月・12月に「職員研修」

を、3月には「拡大地区支援チーム会議」を開催しました。(P.8 参照)

区計画では、8月と3月に「みどりのわ・ささえ愛プラン推進委員会」を開催し、地区情報の共有や振り返りなどを行い、次年度に向けた取組の方向性についても議論していただきました。

(2) 生涯にわたる健康づくりの推進 安全・安心・健康

「第2期健康横浜 21」の目標を達成するため、区民や地域の団体・関係機関と協働で、区民が健康づくりに取り組みやすい環境を目指し、地域支援などの仕組みづくりや意識啓発に取り組みました。

まず、健康づくり月間講演会では、2月に女優の小山明子さんを講師に迎え、大変多くの方(299人)にご参加いただきました。区役所で行っている「思いやり健康づくりの日」事業では、健康チェック、歯科相談、禁煙相談などを9回実施し、延 506 人が参加しました。

食生活等改善推進委員会と協働で進める「緑をたっぷり召し上がれ」事業では、「野菜をもっと食べようキャンペーン」(3か所)やイベントウォーキング(3回)を行うなど、食習慣の改善、食育の推進等に取り組みました。

また、発災時の「食」はすぐに健康問題に繋がるため、家庭で保存(備蓄)している食品を利用したレシピをまとめたリーフレット「食からの防災対策」を作成しました。



＜思いやり健康づくりの日の様子＞



＜リーフレット「食からの防災対策」＞

(3) 高齢者・障害者施策の推進 情報 安全・安心・健康

成年後見制度の普及啓発として、5月に映画「エンディングノート」上映会と権利擁護に関するパネル展示等を実施(参加者 235人)しました。6月～11月には、区内の4つのエリアごとに「若い支度講座」を開催し、エンディングノート作成体験や、遺言・相続・成年後見制度に関する講義・演習を行いました。(参加者延 463人)

介護予防の取組では、5月に健康づくり・介護予防講演会「今から始める健康づくり～夢・絆・仲間づくり～」を開催(参加者 367人)しました。6月には認知症予防講演会「あなたの脳も若返る!!」を開催(参加者 52人)し、さらに脚力アップ講座やお口元気アップ講座、認知症予防講座等を順次開催(参加者延 520人)しました。また、平成 24 年度から取り組んでいる元気づくりステーションは、平成 25 年度末で 4 か所となりました。

一方、近年増加傾向にあり社会問題化している「うつ」等の精神疾患に関する正しい知識の普及啓発として、1月に心の健康づくりに関する講演会を開催(参加者 570人)しました。



＜「心の健康づくり講演会」のチラシ＞

(4) ひとり暮らし高齢者の見守り事業 安全・安心・健康

ひとり暮らし高齢者に対する地域での支えあいと見守り体制を充実するため、希望者に対し、民生委員が定期的に電話による連絡や訪問を実施しました。(登録者 95 人、定期訪問回数約 1,600 回)

また、75 歳以上のひとり暮らし高齢者を対象とする見守り活動について、訪問等による状況確認を今年度新たに 401 人について行い、状況に応じて、区役所や地域ケアプラザ(地域包括支援センター)等の必要な支援につなげました。

第3章 区計画

(5) 地域における子育て支援 **機会・場**

核家族化する子育て家庭の育児支援を目的に、区内の保育施設と協力して、未就学児・保護者が参加できるイベント「あつまれみどりっこまつり」を3会場で開催（参加者延975人）しました。

また、区内で行われている様々な子育て支援に関する情報を発信し、地域での育児支援活動を推進するため、「0歳児を対象とした赤ちゃん教室」（12か所各10回）や地域ケアプラザと連携した「プレパパ・プレママ教室」（6か所各2回）を開催したほか、保育コンシェルジュによる情報提供として、保育所入所申込保留児に対するアフターフォローや、地域子育て支援拠点・広場等での出張講座（年間20回、参加者延186人）を実施しました。

さらに、児童虐待防止啓発事業として、11月に映画「うまれる」の上映会とパネル展示を実施し、約200人の方に参加いただきました。



＜児童虐待防止啓発事業の様子＞

(6) 地域における青少年の育成 **人材・担い手**

「夢みどり50プラン」（区制40周年を記念して区内の小中学生が描いた10年後の緑区の姿）の実現に向け、まず、小中学生が区内イベントにおいてボランティア活動を実践する「ふれあい交流活動」として、8月の子どもアドベンチャー2013には小中学生ボランティアが10人参加し、3月の白山地区センターわんぱくこどもまつりには22人が参加しました。また、地域や学校の活動の様子を子ども達が取材し、毎月広報よこはまみどり区版に「夢みどり記者通信」として掲載し、9月号までに区内小中学校分を全て紹介しました。

3 みどりの魅力あふれるまちづくり

(1) 地域課題チャレンジ提案事業 **人材・担い手**

住みやすいまち・緑区を目指して、福祉保健、環境保全、防災・防犯、まちづくり等地域が抱える様々な課題を解決するため、地域の活動団体と区役所が協働で取り組む地域課題チャレンジ提案事業を、今年度も実施しました。4月には、25年度採択事業（13件）について、区役所と事業提案団体との間で協定を締結し、各々役割を分担して事業に取り組みました。12月にはシンポジウムを開催し、事業の取組発表を行いました。26年度については16件の事業が採択され、26年4月に協定を締結する予定です。

(2) 市民活動の支援 **人材・担い手**

市民活動や地域活動を支援するため、緑区市民活動支援センター「みどりーむ」で、区民と協働で各種講座等を実施しました。活動ノウハウを学ぶための市民活動セミナーとしては、防災・減災講座、介護保険講座、市民活動団体運営講座などを、活動団体の相互交流の機会を提供する事業としては、ちょっと先生1日体験講座、支援センターまつり、サロンふらっとなどを、さらに定年前後世代の区民の仲間づくりや地域活動参加のきっかけとなる講座も実施し、地域活動参加のきっかけや地域活動の活性化につなげていきました。

(3) 緑区民文化センター「みどりアートパーク」の開館 **人材・担い手** **機会・場**

平成25年10月5日に、区内文化活動のさらなる活性化や文化を通じた地域の連携を図ることを目的として開館し、開館記念イベントの一部を区民企画により実施する等、人材の育成と交流に努めました。今後は、文化活動を始めとする地域の活動拠点としての利用も期待されます。